

石巻市・石巻専修大学・専修大学共同企画展
唱歌斉唱―「故郷」の作詞者・高野辰之の生涯―



配布チラシ表面



会場として利用した東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館）5階展示室の様子



石巻市・石巻専修大学・専修大学共同企画展
唱歌斉唱―「故郷」の作詞者・高野辰之の生涯―



オープニングセレモニー後の展示会場の様子。当日は多くの方々が来場され大いに賑った。



開催初日に行われた記念演奏会において開会の辞を述べる亀山紘石巻市長（左）と日高義博理事・学長（右）。



開催初日の記念演奏会において合唱する専修大学グリークラブ（左）と12月9日に展示会場6階で開催した記念シンポジウムの様子（右）。



記念シンポジウムにおいて開会の辞を述べる坂田隆石巻専修大学長（左）と基調講演を行う岩井正浩神戸大学名誉教授（右）。

石巻市・石巻専修大学・専修大学共同企画展
唱歌斉唱―「故郷」の作詞者・高野辰之の生涯―



12月15日の石巻専修大学学生ホールにおける記念演奏会の様子。



石巻市立中津山第二小学校3年生の児童たちによる復興応援歌「ことば」の合唱。



石巻専修大学合唱部の合唱。

石巻市・石巻専修大学・専修大学共同企画展
唱歌斉唱―「故郷」の作詞者・高野

多くの唱歌を手掛けた作詞家高野辰之（1876～1947年）の生涯を紹介する企画展が12月1日、仙台市青葉区の東京エレクトロンホール宮城で始まる。16日までの会期中、記念のシンポジウムと演奏会が仙台市と石巻市で開かれる。

高野は「故郷(ふるさと)」「春の小山」などの作品で知られる。専修大をはじめ全国100校以上の校歌を作詞し、江戸文学や演劇の研究者としても実績を残した。

企画展は高野辰之記念館（長野県中野市）が収蔵する師範学校時代のノートや、作詞した校歌に関する資料など約80点を展示。東日本大震災で大きな被害を受けた石巻市

高野辰之の生涯知って

の被災前の光景と復興の足取りを写真で伝えるコーナーも設ける。

演奏会は1日午後1時半から青葉区のエル・パーク仙台、15日は午後2時から石巻専修大で開催される。それぞれ地元の音楽グループや合唱団が高野作品を披露する。

シンポジウムは9日午後2時から、東京エレクトロンホール宮城であり、岩井正浩神戸大名塾教授が基調講演。近藤裕子石巻専大特命教授らが高野の業績を振り返る。

企画展などは石巻市と専修大、石巻専大が主催する。いずれも入場無料。連絡先は専修大大学史資料課03(33265)5879。

来月1日から仙台で企画展

「故郷」「春の小川」の作詞家

↑『河北新報』の記事（平成24年11月25日）

石巻市「石巻修大」による『復興共センターの展示スペースの一部使用し、高野氏周辺へ』も飾られてい

展唱歌を唱へ『故郷』の原稿や日記などを展

示。震災から現在まで

記念演奏会は第一部

衆二部は石巻市民合
団、石巻マンドリー
など石巻の市民団体
による演奏が行われ
津山二小の高橋唯さん
の作品「ことば」に同
大特命教授近藤裕子さ
んが作曲した曲を中津
山二小の児童と石巻市

「故郷」作詞者・高野辰之企画展

15日、石巻で記念演奏会

石巻市と
石巻専修大

の石巻専修大学生ホー

の石巻専修大学生ホ
ルで記念演奏会を開催
する。いずれも入場無
料。

企画展は東日本大震

の復興の様子を写真パネルで紹介しているほか、石巻修修大が制作した3Dプリンターに「演題に二」講演会を開催する復元立体模型「ふく」。

ある。
連絡先は専修大学
史資料課03(326
5)5879。

と云うのがあった。教えずに家族や園田に無邪気な愛情を注ぎ、気持ちの細かな人となりが、人に対して決して差別意識を持たなかった。それらが作品に表れていたと思う。半間も作詞も原稿はなし。学は人なり、芸術は人なり、彼の人間性抜きでは間も作品も理解できないのでは」と高野

も

↑『石巻かほく』の記事
(平成24年12月13日)

第508号

(昭和44年10月14日第3種郵便物認可)

ニ ュ ー ス 専 修

24



「故郷」「専修大学校歌」など作詞

高野辰之の人生



▲ 初日の来場者でにぎわう企画展会場

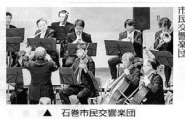
近松など江戸俗文学



▲ 左から瀬戸口、近藤、杉本、各氏（シンポジウムで）



「豪放磊落な半面、涙もろい」した。

[illegible]

↑『ニュース専修 第508号』の記事（平成25年1月15日）